公表 児童発達支援事業所における自己評価総括表

○事業所名	わかくさ(さくらんぼルーム)				
○保護者評価実施期間	2	2025年 1月 27日	~	2025年 2月 14日	
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	13	(回答者数)	13	
○従業者評価実施期間	2	2025年 1月 27日	~	2025年 2月 14日	
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4	(回答者数)	4	
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 3月 22日				

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
	小集団での一日保育		引き続き、発達特性についての理解を深めるために研修に参加したり、職員間で日々の支援を振り返り、支援の質を高め
1		めて必要な援助を行いなから、個々での関わりでは育ちにく	
		い集団の中で育つ力を大切にしている。	
	・食育活動(魚の解体ショー・七草がゆ・とうもろこしの皮	調理員と連携して食育活動を行っている。食材の形や匂い、	食について情報収集をし、調理員と相談しながらより幅広い
	むきなど)	触った感触などを感じ、食材を身近に感じられるような活動	食育活動を考えていく。
1 2	・給食を提供していること	を取り入れている。また、調理員が直接子どもたちに食につ	
-		いての話をしたり、給食の喫食の様子を見に行くなどして、	
		調理員と子どもたちとの交流も大切にしている。	
	同法人の児童発達支援やこども園の児童との交流	70270727071	さらに双方の職員間の関係を深め、知識の共有や活動の幅を
		いろな子どもたちと関わって刺激を受けたり、職員も双方の	広げられるよう努める。
3		保育や支援に刺激を受けて、今後の支援に反映していけるよ	
		うにしている。	

		事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
				活動内容を工夫しながら、立地に左右されない活動、移動する際の手法などを考えながら、活動を展開していく。
	1		3 C S C S A D S C 13 N G 755 N T S A L 1 L S N C C C G C	Sixty y Made Expression St. Half Expression Co.
L				
			少ない人数で職員もじっくりと関わることができることはいいことではあるが、子ども同士の関わり合いは減っている。	新規利用児の確保に向けた取り組みを行っていく。
	2		V CC Clores Bio V is Copies Especially Sign Normal Section	
	_			
	3			
	3			